

## 授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

留学プログラム名	派遣交換留学		
所属（本学）	理工学研究科国際開発工学専攻		
現在の学年	修士2年		
留学先国	シンガポール	留学先大学	シンガポール国立大学
留学期間	2015年8月3日～ 2015年12月5日		

### ① 留学先大学の概略

シンガポール国立大学とは、シンガポール独立以前である 1905 年に創立した国立大学で、2015 年度の QS 世界大学ランキングでは 12 位と、アジア圏で一位であり、近年急速に存在感を増している。また、学生の約 20%は外国人留学生であり、40 カ国のトップ大学と 300 の交換留学制度を設けるなど、世界に窓口が向いてあることもこの大学の特徴である。私は、英語圏のアジアの大学で勉強したいと考えていたため、当大学を志望したが、やはりほかの日本人留学生もアジアを意識している学生が多いように感じた。

### ② 留学前の準備

修士課程に入ってから留学の準備を始めたため、語学の勉強や修士論文、就職活動のことも考え、3年間かけて卒業することを当初から計画していた。そのため、修了要件の単位数は留学前に取得したが、就職活動はいついそ事前に行っていなかった。一年生時は、語学力を上げ、留学先の情報をインターネットで収集したりしていたが、幸いにも、留学先の情報は、同じ大学にすでに交換留学していた同期がいたので、あまり困ることはなかった。留学の準備として、ビザの取得や住居を探す必要があるが、シンガポール国立大学の場合は応募した後、それに伴っての情報が送られてくるので、それを読み事前に準備をすれば問題はない。ただ、ビザに関しては提出書類の規定が厳しいため、私を含め何人かは写真の撮り直しなど求められるなど、現地でなんらかの処理をする必要があるかもしれない。

### ③ 留学中の勉学・研究

授業の履修のみで申請したため、研究室には所属していなかった。授業は基本的には、大人数での講義と少人数でのチュートリアルに分かれている。講義ではインプットが、チュートリアルではアウトプットが求められ、日本での授業と比べプレゼンテーションの機会が多かった。また、シンガポール国立大学の学生の授業参加度はきわめて高く、グループや個人でのプレゼンテーションも高いクオリティが求められ、授業の準備はしっかりと行わなければならない。

授業の登録・管理だが、すべてオンラインで行える。授業の登録は、事前登録と事後登録と 2 回行わなければならないため、注意が必要である。授業の管理は、web ページで行い、そこに授業の内容や課題の情報がアップロードされており、授業によっては授業の動画をアップロードしているため、授業に参加しそびれたり、内容を聞き逃したりしても、後ほど確認できる。

#### Infrastructure and environment

グループワークや授業など参加し勉強していたが、試験会場を間違ったため期末試験を受けることができなかった。そういったことを事前に確認しておらず、最後の最後で失態をおかしてしまい、猛省している。

#### Introduction to Japanese Study

日本の文化や歴史といったところで、日本人である分自信があったが、テストでは英語での記述問題を解けず、表面的なところだけでなく、背景などをもっとしっかり勉強しておくべきだった。

### ④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

留学では、インターンシップやボランティア事業など授業の履修以外にも積極的に活動を行った。インターンシップでは、週に 2 日間日系のインキュベーション企業で働かせていただき、その一環として、ある企業の商品の販売業務を行った。またボランティア活動としては、シンガポールでの歌舞伎公演の通訳やカンボジアのアウトソーシング事業の手伝いなどいくつか行った。このような普段経験することができないようなことができ、とても勉強になった。

また、シンガポールは東南アジアの中心に位置していることから、他の東南アジア諸国に旅行に出やすく、私を含め、友人も休みの日を利用して、東南アジアのいろいろな都市を回った。

#### ⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

今回の留学ではいろいろなことに挑戦するという目標を立てていた。この目標の理由は、社会人になる前にいろいろと挑戦し、失敗しておきたかったからだ。そのため、留学期間中は、研究活動や授業の履修だけでなくインターンシップやボランティア活動、その他さまざまなことに取り組んでおり、そういった活動をしているうちにそれまでの自分がいかに限界を決めて、前に出ることを恐れていたかに気づくことができた。たとえば、授業ではネイティブの前でプレゼンをしたり、インターンでは英語での販売業をするなど、はじめは私の英語力では到底無理だと思っていたが、実際にやりとげ、とてもやりがいを感じた。留学を通して、そのような意識を変える経験ができたことは私の人生にとって、とても意味があったと思う。

#### ⑥ 留学費用

日本奨学金機構から毎月10万円をいただいていたため、お金の困ることはなかった。ただシンガポールの物価は東南アジアにしてみればとても高く、大学の寮費も月に4, 5万ほどで東京の物価とそこまで変わらない。学内では食費が安く、いろいろな施設を無料で利用できるため、そこまで生活費はかからないが、もし旅行や大学外での活動を考えているなら、奨学金以外にもある程度予算を立てておいたほうがいいと思う。

#### ⑦ 留学先での住居

シンガポール国立大学では、ホールとレジデンスという寮を提供している。ホールは、寮ごとに食事を提供しており、レジデンスではそれがなく学生は各エリアの学食を利用する。私が住んでいたのは Prince George's Park Residence という大学最大の収容人数であるレジデンスで、フロアごとに風呂やトイレを共有するつくりになっている。どの寮にもある程度の施設を備えており、基本的には大学の中だけで生活はできる。ただ、寮ごとの施設の拡充度は異なり、インターネットで申し込みするのだが、施設が充実している寮は応募が殺到するため、希望通りには決まらないことが多い。

#### ⑧ 留学先での語学状況

シンガポールは英語が公用語であるため基本的にすべては英語で事足りる。ただ、一部中国人労働者などは自国の言葉しか話せないため、中国語などを話せるといういろいろと便利だと思う。また、シンガポールの英語は独特なアクセントのシングリッシュが話されており、はじめはなかなかわからなかった。

#### ⑨ 単位認定、在学期間

単位認定については、すでに大学院での終了要件の単位数は満たしているが、JASSO の奨学金の規定のため、留学先でとった単位を認定してもらう予定である。在学期間は、就職活動や修士論文がまだ残っているため、1年延長する予定である。

#### ⑩ 就職活動

本格的な就職活動は帰国後に行う予定である。ただ留学中も、シンガポールに駐在している日本人の方に話を伺ったり、志望企業のオフィスがあったので訪問し事業内容などについて聞くなど、準備は行っていた。

#### ⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

はじめは全くの一人であったため、visa の申請や授業の申請などわからないことが多かった。もっと事前に下調べしておくかと落ち着いて対応できたと反省した。

#### ⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

留学は、語学力の向上だけでなく、まったく新しい環境でいろいろな人と出会い、知見を広げるいい機会になるので、語学の問題や金銭的問題、時間の問題とクリアしなければならぬ問題が多くありますが、ぜひおすすめしたいと思います。たとえば、シンガポールでは国土が狭く、日本の社会人の方が多く在住しているため、そのような方ともかかわる機会が多いで

すし、シンガポール国立大学には様々な国から留学生が来ており、彼らの多様な考え方に触れることは、私にとって本当に貴重な経験でした。

最後にこのたびの留学にご理解を示していただいた研究室の先生方、両親、そして留学に関していろいろな面でサポートしていただいた担当者の方々に、感謝の意を示させていただきました、この報告書の結びといたします。まことにありがとうございました。